



とよかわの

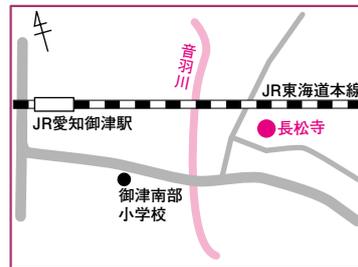
豊川市の観光資源を紹介します。

問合せ先 ● 市観光協会 89-2206

みつけた!



奇祭「どんき」が行われる長松寺の観音像



白狐^{ひゃっこ}や天狗^{てんぐ}が子どもたちに紅ガラを塗り、無病息災を願う奇祭「どんき」が行われる御津町下佐脇^{にょい}の長松寺には、変わった姿の観音像があるのをご存知でしょうか。境内の一角に祭られた如意輪^{にょい}観音の石像で、その姿は、左足はあぐらをかき、右ひざを立てて、その上に右ひじを乗せ、右手はほほに付けています。この観音像の由来として山伏にまつわる話があります。

その昔、御津町下佐脇は紀州の熊野と関係が深く、長松寺は熊野権現を祭る佐脇神社の奥の院といわれていました。熊野から初穂米を取りに来る山伏の数次第が増え、困惑した村人が山伏70人余りを処罰し、各所の塚に埋めたところ、それに関係した人たちが病気になりました。そのため、宝永5（1708）年に長松寺の境内に塚を集めて山伏塚として供養をし、その上に如意輪観音像を安置したところ、人々の病気は治ったということです。

この山伏塚の供養は、今でも毎年2月の第2日曜日に行われていますが、観音像は、いつでも自由に見学できます。

